

事業完了後の連携体制について





幌向地区自然再生地の 今後の活用と連携体制構築について

～行政・研究・地域・民間の知恵と力で未来に繋ぐ～

株式会社エコテック（河川協力団体登録）

坂元 直人（昔風舎 主宰）

2025年6月17日

1. 令和7年度 国直轄事業の終了と新たなステージ

- 幌向地区自然再生事業：造成・保全の段階から『活用・継続』の段階へ
- ワークショップ（矢部先生座長）の果たした役割に感謝
- 今後は地域主導・ステークホルダー連携の時代へ





2. 今後の目標

- ➡ ① 希少湿地種を含む『種の保存』
- ➡ ② 『湿地のワイズユース』
～教育・福祉・地域づくりとの連携～
- ➡ ③ 順応的管理による持続可能な利用と保全の両立

3. ステークホルダー構成 (これまで関わったメンバー)

行政・公的機関



南幌町
Nanporo Town



美幌市
Bibai City



江別河川事務所



空知総合振興局



EPO北海道
Environmental Partnership Office Hokkaido

研究・教育機関



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY
矢部教授



星置養護学校



NARO 農研機構



ECO PLAZA 札幌市
環境プラザ

ほろむい
七草の会

民間・NPO



雪印種苗株式会社



赤平オーキッド



石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク
(石狩川流域ネットワーク)



H. RYOKUKOU
the moor
(北海道緑興)

技術コンサル



総合建設コンサルタント
株式会社ドーコン
Docon



ほか

4. 『ほろむい七草の会』の 正式発足

- ➡ ・ 幌向自然再生ワークショップの解散を受け、
有志による新任意団体を設立
- ➡ ・ 矢部先生を会長に迎え、地域連携の旗印とする
- ➡ ・ これまで非公式で使用してきた名称を公式化し、発信力を高める



5. 継続的に裏方的な役割を担うものが必要

- ➡ ・ 『ほろむい七草の会』の実働部隊
- ➡ ・ 札幌市環境プラザと連携した
『ミズゴケのじゅうたんプロジェクト』を推進
- ➡ ・ 教育・福祉との連携、環境啓発資料制作、
種苗育成の現場を支える実働チームの育成
(江別すずらん病院、星置養護学校、環境プラザなど)

6. 持続可能な体制整備の提案

年1回の評価報告会 (モニタリング成果共有)

◇メンバー（案）

矢部名誉教授（札幌市立大学）
矢崎准教授（明治大学）
コンサル学会員
エコテック社員、ドーコン社員など

カナダのミズゴケ湿地再生事例を幌向の湿地再生に応用

北海道湿地コン
ソーシアム部会
(日本湿地学会)
での実施を提案



これまでの湿原再生
ミーティング実施状況

外来種駆除・ ミズゴケ導入等の 実践連携



外来種駆除フットパス

教材化・フットパス・多世代参加を 推進



幌向小の環境学習支援



ほろむい 自然再生 ガイドブック

石狩川流域ネットワークからの 情報発信



7. おわりに

- 地域が主役となる再生地運営の支援役を果たします。
- 皆様のご協力をお願いいたします。

再生で咲くカキツバタ
(背景は栗幌橋)

